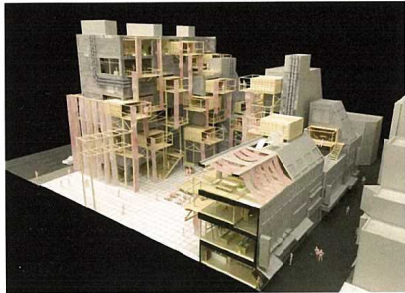


MAKE A THING FROM MADE THINGS

東京大学建築学専攻修士一年・常松祐介

一伝統を引き継ぎ、新たな創造へとつなげる

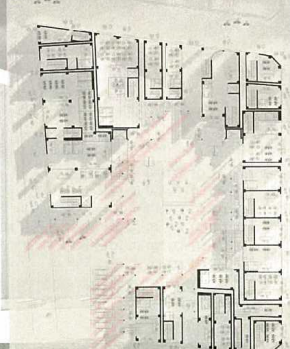
会所地を立体化する～上野広小路に〈商・住・宿〉一体の拠点を設計する～ 卒業制作 / 辰野賞 (東大最優秀賞)、ほか受賞多数 / 2016



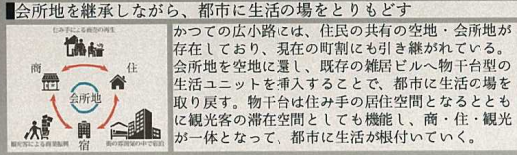
RCの雑居ビルに木造の「物干台」を挿入される かつての会所地は買物客・観光客が滞留する広場に 会所地のにぎわいが表通りにもあふれ出す



会所地を中心とする街区平面図



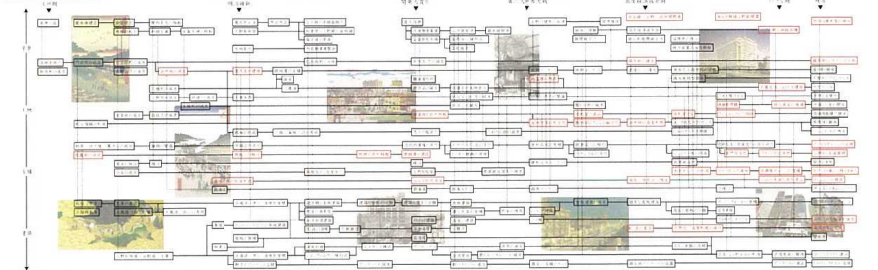
GLは既存の雑居ビルが取り囲む広場に



かつての広小路には、住民の共有の空地・会所地が存在しており、現在の町割にも引き継がれている。会所地を空地に置き、既存の雑居ビルへ物干台型の生活ユニットを挿入することで、都市に生活の場を取り戻す。物干台は住み手の居住空間となるとともに観光客の滞在空間としても機能し、商・住・観光が一体となって、都市に生活が根付いていく。

地域誌からみた都市の近代化

卒業論文 / リサーチ・東大最優秀賞 / 2015



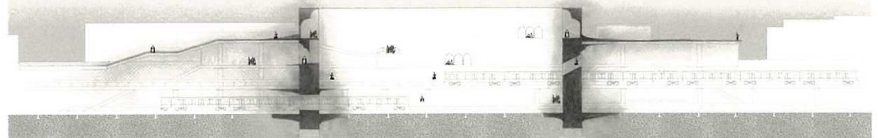
上野広小路を対象に一軒一軒、地図資料と写真資料を対照していくことで、都市の近代化を地域誌の視点から明らかにした

都市にキャラバンサライを挿入する

駅施設 / スタジオ最優秀賞 / 2015



巨大な厚壁に囲われたプラットフォームは、都市を行き交う人々の時間をほっかりと切り取る



既存の上野駅に対して、厚さ5mの厚壁を巡らすことで、プラットフォームは巨大なキャラバンサライ（降商宿）へと変貌する



巨大な中庭は駅空間の祝祭性を喚起させる 厚壁のポケットが一人ひとりの居場所になり 都市の中心で異なる時間が流れる

窓辺に記憶を託す

集合住宅 / オランダ・リノベ調査をもとに設計提案 / 2016



スケルトンとしての面壁とインフィルとしての住戸

時が経つとともに窓辺に記憶が託されていく

面壁に時間が刻まれていく集合住宅